

## まんが王国・土佐推進協議会 令和2年度第1回総会（概要）

日 時：令和2年9月24日（木）14：00～15：30

場 所：オーテピア高知図書館 4階 ホール

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員 14名  
監事 2名

### （1）会長挨拶

### （2）議事

次の議案について事務局から説明があり、承認された。

第1号議案 令和元年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告及び収支決算

第2号議案 令和2年度まんが王国・土佐推進協議会補正予算（案）

### （3）報告事項

次の報告事項について、事務局から説明の後、意見交換が行われた。

第1号報告 令和2年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

- ・まんが甲子園増刊号の実施について
- ・第7回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐について  
（第3回世界まんがセンバツ含む）
- ・まんが王国・土佐ポータルサイトの運用について
- ・まんが教室の実施状況について
- ・まんが王国・土佐情報発信拠点「高知まんがBASE」運営状況について

### （4）協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明の後、意見交換が行われた。

第1号協議 令和3年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

- ・事業推進部会からの提案（事業推進部会長）

### （5）閉会

第2回総会は、令和3年2月下旬に書面での開催を予定

## 第1号議案 令和元年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告及び収支決算

委員一同承認

## 第2号議案 令和2年度まんが王国・土佐推進協議会補正予算（案）

委員一同承認

## 第1号報告 令和2年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

### 【A委員】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、第44回全国高等学校総合文化祭2020こうち絵文の通常開催は、残念ながら断念したが、絵文を途切れさせず、ずっと続いてきて44回目を高知県で開催したということを残したいということで、WEB SOUBUNという形での開催を決断したことは本当に良かった。
- 開催方法の方向転換をしたため、これまで準備してきたことを転換していかなければならない苦しさはあったが、それをWEBという形に直して行って実施したことで未来につながり、全国から参加予定であった高校生2万人以外の方も見られたという利点があった。
- 参集し、実際に会うことができない状態になった時、WEBを使って開催ができる可能性を示した。
- 全国からも、「高知県のWEBでのやり方というのは危機対応の時に使える」（参集しての大会ができなかったという）ネガティブな評価でなく「近くで接写して見ることができる」「家でも見られる」「自分の好きなときに見られる」という利点があると評価されており、この秋に開催される県内の総合文化祭についても、長野県はすでにWEBの手法を使っての開催を考えている。
- WEB開催への方向転換は私たちにとっては苦しかったが、つなげられたこと、実施したことがまんがも含めて新しい可能性を全国に広げる回になった。
- こういったきっかけを作ったので、危機の際に実施するだけでなく、このチャンスと可能性をもっと広げ、実際集まることが一番良いがそれにプラスした形で広めることに使っていく形が良いのではないかと感じている。

### 【B委員】

- 私はオンライン、ネットも多少は使うが、その良さが実感としてよくわからず、お手軽なのは良いが、正体がないようなイメージがあった。しかし、実際自分が（生配信に）参加し、本当に生でやっているのと手応えがほとんど変わらないということにちょっと驚いた。
- 本当に会場に来られなくても、みんなで参加でき、普段見られない人でも見られる、接するチャンスになるという、本当に可能性を感じるばかりの大会だった。
- 多くの作品が集まり、まんがを描きたい人はどんな形でも、チャンスがあれば必ず

描くのだなと思った。

- オンラインの可能性というものを改めて感じ、これからは新しい生活様式といわれているが、今後の大会はこれまでのものとオンラインのハイブリッドで、どんどん新しいアイデアにチャレンジしていけるような、その土台になったらいいなと感じている。

#### 【C委員】

- 高知県は「まんが王国」ということでずっと言って来ており、築いてきた文化なので、これからはしっかりと継承していくことが重要だと思う。
- まんがは1つのカルチャーで、世界に誇れる日本のまんが文化。それを特に多感な時期の高校生達が現実に向き合いまんがによって表現していく、色々な風刺的なものもあると思うが、我々町村にとっても少子化により廃校が増え、中山間地域は特に厳しいなか、それぞれの自治体において、学校の教育の一環の中にまんががあるということが、老若男女問わず、また年代を問わず楽しめるものである。
- 今回のまんが甲子園は通常の形で開催できなかったが、大きな発見もあった。
- 次に向けて希望ある形で取組を進めていっていただければと思う。

#### 【D委員】

- 春のおきやくと一緒に漫画家大会議をやってきて、ものすごい集客力があり期待していたが、まさかこんなことになるとは思わなかった事態がずっと続いているという状態。
- こういった事態になっても対応して総文祭やまんが甲子園をWEBでできた。普通であれば、中止ということが多いが、実施し回数を重ねたということが、非常に良い経験になったと思う。
- 人と人が接して一緒に喜び合うというのが基本だと思うが、それと違った形で実施できたということは、非常に可能性があると思う。
- 来年3月の漫画家大会議は、実際に開催され、漫画家さんとお会いしたいと思う。
- 今年の経験は良い経験として次につなげていければ良いと思う。

#### 【E委員】

- コロナ禍において私どもも大変厳しい状況だが、大変学ぶことが多く、新しい可能性等に気づく良いきっかけになったと思う。
- ハイブリッドという言葉にとっても共感しており、来年度、新型コロナウイルス感染症の影響が残ったとしても、今回を機会に日本の文化を全世界にという視点から、日本を牽引していくような立場で、高知からまんが文化を世界に発信していけたらいいなと思う。
- 来年ハイブリッドでいかに世界から募るかということに取り組んでいけば、もう少し日本国内からの注目度も上がっていくと思うし、さらに先に進んでいけるきっかけにいただけたらなと思う。

#### 【F委員】

- コロナ禍になってこういった形で開催されたということだが、今後コロナが収束しても今回の取組は残していかななくてはならないオンラインの世界なのではないかなという気

がする。

- 世界から来ることも非常に難しく、こちらから行くことも難しいとなると、サイン会などに関して、今後私どもの社ではオンラインサイン会を開催しようと考えている。
- 1カ所でサイン会を開催しても、サイン会に来る人には限りがあるため、欲しい方全員がサインをもらえないし参加できない。オンラインサイン会として、実際目の前で描いてもらうのと同じような映像で間近で見られて、そして自分の手元に書いたサインがやってくるという、欲しい方全員にサインを書いてあげられる仕組み等を考えている。
- ARやVRを使い、世界中でサイン会ができるという仕組みができるのではないかと考えている最中。
- コミケやあらゆる展示会がこのコロナ禍によって一切中止ということになっているが、おそらく、今後オンラインを使って展示会やコミケが開催されていくと思うので、このまんが甲子園の中にも、収束した後でもずっとこのオンラインの取組というのは残し、続けていってもらった方がいいような気がする。

## **第1号報告 令和2年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について**

### **令和2年度まんが関連事業計画（案）全体について**

#### **【青木副会長】**

- 時代はデジタル化へ一直線。そういう意味では、アナログからデジタルへ、それから世界へ、あるいは平面から立体へという考え方。
- 見る人が臨場感あふれる、迫力を感じるような見せ方も極めて大事だし、それが感動を呼ぶような形のものにもっていくということは考えていかなければならないと思う。そうすると、やはりバーチャルリアリティ、見る人がゴーグルで3D映像を楽しむとか、そんなことも考えながらやっていく時代に入って来ているように思う。
- 第29回の経験が無駄にすることなく、次の時代へどの様な形で取り組んでいけばいいのか、またそのことが学生たちの人材育成に、デジタル化の中での人材育成につながっていく。

#### **【吉村部会長】**

- （今年、総文祭に向けて制作したまんが甲子園PRパンフレットにある）教育の話、この可能性がすごいと思った。パンフレットの中に書いている「アクティブラーニング」の活用というところ、まんがに携わる、まんがを描くこと、考えてることがアクティブラーニングに繋がる。
- 30年前からアクティブラーニングをやっているまんが甲子園の成果としてOB・OGの中で、日本で活躍している人がこれだけいるということ、国から表彰してもらって名誉をもらう等の裏付けができれば、まんがで教育を盛り上げていく産業といった形にして、学校から要請をもらって、講師が行くという、教育パッケージのようなものを売り込んだらどうか。

- 教育パッケージを多言語化し、海外から注目してもらえるようにすると、海外から、どのようにやっているのかということに繋がり、オンラインを通じて様々なやり取りをしていく。ノウハウの輸出みたいなところまで、30年くらいの蓄積があればできるのではないかと思う。
- 海外に向けてのアプローチについて、実際に見せ方等を工夫するのもいいかも知れない。まんがには本来は音はなく、書き文字の文化も素晴らしいが、世界の方からまんがを見るときに、ある程度、刺激と入り口の柔らかさが必要だと思うので、音等を加えることによって、さらに躍動的になる。そういった演出等もイベントの際に、優勝作品とかの発表の時など、作品自体がそういった音を伴って発表される等。
- まんが翻訳に特化した翻訳A Iを高知県で開発したらどうか。まんがの吹き出ししか翻訳しないA I。まんがは特殊なセリフが多いので、そこに特化したまんが翻訳A Iを、高知県が開発すると面白いと思う。

## **まんが甲子園**

### **【G委員】**

- まんが甲子園も、世界まんがセンバツも、外国の方からの応募が結構多くなっている。まんが甲子園の出場枠も海外の学校が指定枠になっており、入選作品にも選ばれるものが多々出ている。外国の作品が選ばれたとき、言葉がわからないので面白さや、何を描いているのかよくわからない。外国語の対応を今後さらに重ねた方が良い。
- 30回記念ということで出場校数を増やすこと、大ホールを使った開会式・閉会式の実施は非常にいい案だと思う。翌日に大交流会を実施というのもいい案だと思う。一方で、よさこいの何日か前から高知市内のホテルはいっぱいになる状況だと思うので、高校生が100人、200人単位で泊まれる宿を用意するのというのはなかなか大変なのではと心配をしている。
- オンラインを使ってまんが甲子園の予選審査をするのは非常にいいことだと思う。以前から応募締め切りについて必着なのかどうなのか等、かなり苦慮されてきたと思うので、オンラインでできるのであれば割とその辺は簡単にクリアされていく問題であるし、新聞等で見たような状況だと郵送でも受け付けるということなので、それこそハイブリッドでいい方法だと思う。

### **【事務局】**

- 海外作品については、まずは審査で先生方に作品を理解していただくような形の翻訳をなるべく早く提供し、見ていただけるようにしていくとともに、作品を公開した時に多くの方にご理解いただくような方法というのを、また検討していきたいと考えている。
- やはり作品の良さ、まずはまんがは文字ではなく絵で見てまんがとして見て理解していただくというのが良さではあるとはいえ、やはり描いてある文字の意味がわかれば、作品の良さというのは理解してもらえるとと思うので、これからこういった形でやっていけ

るのかということについて考えていきたい。

#### 【H委員】

- まんが甲子園が今年中止になってオンライン開催になった。観光に携わるものとしては非常に残念な結果だが、実際にWEBを見てみると、それで高知との繋がりができたと感じた。県外から参加した子は「高知に行きたい」と思ったに違いない。今回は来れないが、将来的にはきっと高知に来てくれると感じたので、来年度計画しているオンライン、これはぜひやっていただきたい。
- 一点心配なのが、来年の日程。オリンピックの日程と重なっている。どれだけ移動するかはわからないが、コロナが収束し正常化していれば地方にもお客さんが流れてくると思う。G委員が言っていたように、ホテル等が心配であるという風を感じた。

#### 【I委員】

- オリンピックの関係でいうと、海外からの直接のフライトについては、今年はシンガポールから直接日本に乗り込む便の予約が全くできなかった。キャリアの確保が非常に難しい。総文祭では、高い値段で一年前からキャリアにお願いして直接枠だけ押さえておくということを行った。オリンピックと重なって、海外から選手をお招きするとすると、宿泊というよりも海外からの交通機関の確保が大変になるかも知れない。事前に準備をしておいた方が良くと思う。
- WEBでのPRは色々な面で企業の協力をいただきながらやれば良いと思うが、高知県は高校生だけではなくまんが文化というものが、まんが王国・土佐推進協議会の活動等から一定県民には理解、浸透してきていると思うが、他の46都道府県でまんが文化というものが浸透しているかということ、高等学校の現場において、部活動、活動としてまんがが文化芸術活動としてしっかり認められているかということとまだまだかと思う。
- まんが甲子園は応募するにあたって、校長の印がいる。一次予選を通れば引率の先生が出てこないといけない。そういった状況の中で、校長先生に教育的な意義があつて、まんが甲子園が高校生の文化芸術活動であるということをしかりと理解してもらわないといけないということもあり、今回、まんが王国・土佐推進協議会とも連携して、教育に特化したパンフレットを作成した。教育系にも理解をもらえるようなPRをしていけばいいかなという思いを今年度から持っている。
- こういったイベントが30回も続くのはすごいことだと私も思っている。その実績は素晴らしく、地域再生や地域活性化みたいな団体の表彰に間に合うのであれば30回ということで表彰にエントリーしたらどうか。
- 30年には間に合わないが、お墨付きを得るという意味では、文化庁長官表彰というものがある。文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、又は、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対し、その功績をたたえ文化庁長官が表彰する。そういった中で芸術文化の振興や文化財団の育成とか発展に関し、努力をばらばら顕著な成果を示すものという文化庁表彰というものがある。事務局がこうい

った賞の対象になるように検討されたらどうか。

- 教育関係、文化関係の方面でもし受賞となれば、広くPRできるので、「30年すごいね」となっていくのではないかと考えている。

### 【B委員】

- 毎年予選審査の時に、5校から10校くらいは「ここで落ちるのはもったいない」という作品が必ずある。本選大会で出場校数を増やすということは、そういった学校が出られる可能性が上がるので、本選大会の競技において、面白い作品ができるという可能性も高くなり、大会の競技作品がとても充実するのではないかと期待がある。一方で、「そんなに増やしたら、ものすごい忙しそうだな、大変だな」と、事務局は見たかぎりすごく忙しそうなので心配。
- 29回の参加がオンラインになって、残念な思いをした人を拾い上げるための「合併号」というアイデアがすごく面白いと思う。
- まんが甲子園のバーチャル体験もすごく面白い。本選で第1次競技のテーマを発表し、同時にオンラインでも考えてもらう。タイトルやテーマを聞いたら、参加校でもないのについつい考えてしまうみたいな、そんなことをしたい人が結構たくさんいるのではないかなと思うので、それをワイワイとオンラインで、本選大会に出場できない人も挑戦できるというのはすごくいいと思う。
- 今年の「まんが甲子園オンライン」の締め切りに向け、事務局とは別にまんが甲子園サポーターズが、Twitterでカウントダウンイラストを募集・公開していた。すごくいいなと思った。あと何日というのをイラストに文字を入れて毎日、一般の人に投稿してもらって、それをアップするのだが、「裏まんが甲子園」みたいなイメージ。第1次競技のテーマ発表後、応募してきた人のイラストをアップしてあげるとか、色々なところで勝手に「まんが甲子園」のテーマやネタを考えてもらうことが盛り上がると、別の共有の仕方がしてもらえるんじゃないか、それも1つのオンラインの使い方じゃないかと思った。
- 記念誌に関して、30年間の歩みを載せられると思うんですけど、とても気になるのが30年間の間に、まんが甲子園から育っていったプロの方、スカウトマンシップから実際にプロになられた方、そういう方々の顕彰みたいなのがあるとカッコいいなと思う。漫画家やイラストレーターでなくても、第1回から考えると、年齢的にも社会の中核を担う世代なので、まんが甲子園で培ったものが自分の中でどのように活かされて、自分は社会でどういった立場でやっているといった熱い言葉のようなのもあるといいかなと思う。

### 【濱田会長】

- 来年度の事業案で記念大会は従来どおりの①の本選出場校の競技というのと、②で出場できない予選応募校生徒によるまんが甲子園オンライン競技という2つある。②が新たに入るとなっている。②の方の審査は本審査とは違った、別の流れでやるイメージでいいのか。

## 【事務局】

○②については、今年はコロナ禍への対応ということで、参集しての大会に替えてオンラインでの作品投稿及び審査を初めて実施しましたが、通常開催においては本選競技とは別の流れとして、予選作品応募校のうち本選出場がかなわなかった学校の生徒からオンラインで作品を投稿いただき、協賛・協力企業様等による審査・決定をしていただくという仕組みを、長年協賛をいただいている企業様からご提案をいただいております。

## 第7回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐について（第3回世界まんがセンバツ含む） まんが王国・土佐の情報発信

### 【H委員】

- まんがBASEについては、今コンベンション協会が県外にセールスに行くときに、旅行業業者に既に紹介はしている。
- まんが甲子園の大会は、観光に生かすには期間が短すぎるので売りづらいところはあるが、新しいWEBサイトができた時には、私共が運営する「よさこいネット」とか外国人向けの「visit Kochi」というホームページで紹介することはできると思う。

### 【G委員】

- ポータルサイトはどこのサイトを使うかということよりも、まず自分のポータルサイトがもっと多言語化していくのが第一だと思う。
- 「まんが」というキーワードで世界各国どこからでもアクセスできるので、そのときにほぼ日本語しかないサイトだと読んでもらえない。サイトが多言語化していること。これを最初に取り組んではどうかと思う。
- 例えば、高知市が最初、横山隆一記念まんが館が開館した頃、フランスのアングレーム国際漫画賞の主催団体と交流を、高知日仏協会の尽力を得て行っていたが、そういうところとお話しをする中で、例えば、アングレーム国際漫画賞の中で、「日本でもこういう賞があるんだよ」といったような情報発信ができるようにすることもありかと思う

## 人材育成

### 【G委員】

- 何年前に、先生を派遣しなくてもできるようなまんがの教科書みたいなものを作ったかと思うが、その活用状況などをお教えいただきたい。
- 高知市がまんが教室と同じような事業を数年来実施していたが、昨年度をもって事業が終わってしまった。県は、高知市が同様の事業を行っているということで高知市以外の市町村を対象として今までやってこられていたが、何卒か高知市にも振り分けてもらえれば生徒も嬉しいと思う。高知市の中心部にまんがBASEはあるが、高知市も広いので、山間部の学校からは遠く、そのあたりを特にお願いできたらと思う。



## 【事務局】

- 人材育成のまंगाの教科書というのは、コンテンツ創造教育事業ということで、平成28年度から3年間取り組んできた。従来からいろいろとご協力いただいている京都精華大学の先生を中心にまंगाを使った国語と図画工作・美術のワークシートの作成をした。
- ワークシートは完成し、2年目3年目は学校での試行ということで、協力いただける学校にはその教材を使って授業も実施。
- 現在はホームページに教材を掲載し、自由に使っていただけるようにはしているが、やはりこちらから音頭をとって、学校での活用というのを声かけをしていかなければいけないところだなと感じている。今後もやっていきたい。
- まंगा教室については、現在高知市を除く他の市町村ということでやっている。まंगाBASEもできたので、作画体験教室ということで気軽に来ていただいてまंगाを描けるスタッフに教えてもらう等、高知市も近郊の小中学生が気軽にまंगाBASEに足を運んでいただきたいと思うが、高知市でも山間部の学校等についてはこれからの事業の組み立てや可能な回数なども検討していく必要があると思う。
- ご意見について、課の方でも検討していきたい。

## 【J委員】

- 高知の子どもたちはまंगाを通じて自由な発想ができる人材として育てていってほしいということで、高知まंगाBASEについては非常に期待をもって見させていただいている。
- 残念ながらオープン直後からのコロナということで、初めはちょっと出鼻をくじかれたということだが、資料を見ると、7月・8月に尻上がりで来場者数が伸びていっているので、順調ではないがこれからの伸びしろが十分あるのではないかと期待をもって資料に目を通した。
- テクニク的なところを中心に教えているということだが、発想を引き出すという観点からも色々な指導をしていただければ、我々も将来の経営者としての期待も上がってくる。これからは新しいビジネスがたくさん出てくるので、新しい観点を持った経営者こそ生き残っていけると思うので、まंगाを使った新しい発想、そして伝える力というのを養うような拠点にしていただければと思うので、ぜひ関係者においては、そのところをよろしく願いしたい。